Donald McDonald House Charities Japan

Annual Report 2010

2010年 年間報告書

公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン

Letter from the Family

私たちを支えてくださっている皆さまへ

ボランティアの皆さんに救われて

私たちが「ドナルド・マクドナルド・ハウス」を初めて利用したのは、2009年2月のことです。元気だった長男の桜太(おうた)が、10ヶ月を目前に肝機能障害と診断され入院。それから数日の間に容体が変わり、隣県の防災ヘリで群馬の大学病院から東京の国立成育医療研究センターに救急搬送されてきました。数日前までニコニコ笑って食欲も旺盛だった桜太が、ICUにいる・・・顔の色も変色しどんどん状態が悪くなっていく・・・そんな現実が信じられなくて呆然としていた私たち夫婦をハウスは温かく迎えてくれました。目まぐるしい状況の変化に戸惑う私たちに対し、ハウスのボランティアの皆さんにとても親切に接していただきました。

桜太が入院してしばらくは気持ちが落ち込み、誰にも会いたくない、話したくないという気持ちでした。でもハウスにはたくさんのご家族が滞在しているので顔を合わせるとあいさつしたり、言葉を交わしたり・・・。そんなことをしているうちに気持ちをわかってくれるママたちと話をすることで、少しずつ「辛いのは自分たちだけじゃないんだな」と思えるようになりました。

病院の桜太には、朝ご飯が始まる7時ころから夜寝るまでの8時くらいまで付き添います。入院が長引くと出費がかさむので、できるだけお弁当を買うのではなく自炊しようと思うのですが、夜、ハウスに帰ってから料理するのはとてもたいへん。そんなときありがたかったのが、ボランティアさんが作ってくれるご飯でした。ハウスは基本的に自炊なのですが、ときどきボランティアさんがカレーなどを作っておいてくれるのです。温かい手作りの味には本当に癒されました。

ハウスのおかげで家族一緒にいられる

最初の入院で肝臓の移植手術をした桜太は、その後も静脈狭窄や拒絶反応、原因不明の発熱で何度も入院しています。私たちもそのたびにハウスにお世話になっています。昨年からは私の実母にも付き添ってもらっています。ハウスにはいろいろな大きさの部屋があるので、週末に主人が泊まりに来ても家族一緒に過ごせるのがありがたいです。ハウスがなかったら、病室のベッドサイドや車で寝泊まりするしかありません。

桜太が生まれてからずっと、毎月の出生日時である17日 13:32 に写真撮影をしています。10ヶ月目の写真撮影の日は最初の入院中だったので、どうしようか迷ったのですが、元気になったときに「こんなこともあったよね」と笑えるように、笑顔で写真を撮りました。

元気になって初めての外泊でハウスにお泊まり！ハウスに宿泊していなかったら許可は出ませんでした。桜太は久しぶりにパパと一緒のお風呂で大はしゃぎ。ステロイド治療で顔がむくんでいますがいい笑顔です。

同じ病気、同じ年齢、同じ年に移植した仲間たち。母同士はハウスでも一緒に過ごしていたので、強い絆で結ばれています。去年のクリスマスはボランティアさんがささやかなパーティーをしてくれました。ハウスからプレゼントをいただいて、びっくりするやらうれしいやら、とても楽しいひと時でした。

以前、ハウスが満室で泊まれなかったときに仕方なく車で過ごしたことがありましたが、体力的にとてもたいへんでした。

今年の1月には次男の啓太(けいた)が産まれたので、今回の入院は赤ちゃん連れです。まだ小さいので衛生面には気を使いますが、ハウスはとても清潔なので安心しています。病室には12歳以下の子どもは入れないので、日中、おばあちゃんと啓太はハウスでお留守番。おっぱいのときだけ病院に連れてきてもらっています。こんなふうに赤ちゃんの面倒を見ながらの付添いも、ハウスがあるからこそできることです。

ハウス、そしてハウスの運営にご協力いただいている方々には、本当に言葉にできないくらい感謝しています。支援してくださっている方々のように、誰かのために進んで手を差し伸べられる人間に、私も桜太も成長していきたいと思っています。まだこれからもお世話になると思いますが、いつかきっと恩返しをしたいと思っています。

2011年4月9日　深代 菜々緒

娘と孫を支えてくれている第二の家に感謝

娘がドナーとなり移植手術を行ったので、術後は体力がない娘をサポートするためにハウスにきていました。娘が孫の病気で苦しんでいる姿をそばで見ているのは本当に辛いです。でも桜太も娘も頑張っている。だから私も出来る限りのサポートをしたいと思っています。

啓太が生まれてからは、おっぱい以外は私がハウスで啓太のお世話、娘は桜太の付き添いという役割になりました。ハウスが病院の敷地内にあるので、天気のいい日はママに会いに行きがてら、啓太と病院の庭を散歩したりしています。

ハウスは活動しているボランティアさんやインテリアなどとても温かみがあって、第二の家のようでとても居心地がいいですね。

娘が子どもたち二人と一緒にいられるのは、ハウスのおかげです。ハウスがあるから私も娘と孫を近くで支えることができます。ハウスの関係者の方々や募金・寄付をしてくださっている皆様、本当にありがとうございます。

阿部 洋子

Contents 目次

1 Letter from the Family
ご家族からの手紙

4 Donald McDonald House Charities Japan
公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンについて

5 Messages
ご挨拶

9 In Memory of Chairman
開原理事長追悼

11 House Information
ハウス活動内容

19 Volunteer Activities
ボランティア活動

20 Grant & International Exchange Programs
助成事業および国際交流、国内外研修派遣事業

21 Others
いろいろなサポート

22 Messages from the Families
ご家族からのメッセージ

23 Topics 2010
財団活動トピックス 2010

31 Messages from Supporters
応援メッセージ

33 Financial Report
決算報告

36 Board of Directors, Councilors and Selection Members
役員・評議員・選考委員の紹介

37 Our Supporters
サポーター紹介

Donald McDonald House Charities Japan

公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンについて

■財団設立の趣旨

現在、難病に苦しむ子どもの数は全国で20万人に及んでおり、その難病の子どもを持つ家族まで数えると、悩んでいる人はその数倍もいることでしょう。これらの家族は、子どもが入院すると、自宅と入院先との二重生活による経済的な負担、家族が離れて暮らす精神的苦痛など、大きな負担に悩まされることになります。

このような家族を少しでも支援するために、公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンは設立され、子どもが入院する病院の近くに家族が安心してくつろげる滞在施設を建設し、ボランティアによって運営するという活動をしています。ドナルド・マクドナルド・ハウスは世界的な広がりを持つ活動で、現在、世界には300以上のハウスがあります。

以上のように、この公益財団は、患者家族の負担を社会全体で支援する仕組みづくりに寄与することを目的としています。

■財団の概要

名　称：公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン
所在地：東京都新宿区西新宿6丁目5番1号　新宿アイランドタワー 39階
目　的：本財団は、困難な病気を患っている児童及びその家族を支援するため、必要とされている医療施設の近くに安価で滞在できる施設を設置、運営することによって小児医療や家庭の福祉に貢献し、また、医療分野や福祉活動等におけるボランティア活動を推進するための助成活動、啓発活動を行うことにより、わが国の医療・福祉への支援体制の確立に寄与することを目的とする。
事　業：(1) 困難な病気を患っている児童及びその家族が滞在できる施設の設置・運営
(2) 福祉、医療分野等におけるボランティアの活動を行う個人又は団体への助成事業
(3) その他前条の目的を達成するために必要と認める事業
設　立：平成11年4月1日
主務官庁：内閣府

Messages
ご挨拶

公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン

理事長　**柳澤 正義**

Masayoshi Yanagisawa
Chairman
Donald McDonald House Charities Japan

この度の東北地方太平洋沖地震に被災された方々はもとより、被災地にゆかりをお持ちの方々のご心痛はいかばかりかと心からお見舞いを申し上げます。

当財団におきましても、仙台に「ドナルド・マクドナルド・ハウス」があり、当日、地震直後は連絡がとれて、建物に異常はなく、利用者にけがもなく、大丈夫ということは判明していたものの、その後数日にわたって音信不通になり、安否が気遣われておりました。ライフラインが寸断されている中、病院から帰宅できない患者のご家族にも開放しているという状況でしたので、全国のハウスから集積した食料、粉ミルク、電気毛布、それにハウスマネージャーの代替要員を乗せて救援の車を出発させました。全国7ハウスの連携によって、お陰様で患者さんとそのご家族に最大の安心を提供することができました。ハウスのスタッフが自分の家の心配を胸に押し込んで、病院と連携をとりながら必要な措置を取り続けてくださったことに感謝いたします。

今年は、「ドナルド・マクドナルド・ハウス　せたがや」が日本で初めて誕生してから10年になる記念すべき年です。12月には「ドナルド・マクドナルド・ハウス　東大」のオープンも予定されております。

そのような中、ドナルド・マクドナルド・ハウスを日本に招聘することに注力された開原成允前理事長が1月に急逝されました。開原先生の揺ぎ無い信念の下、私も早い時期から主に医療機関の立場でこの活動に関わってきており、今回、理事長をお引き受けした次第です。重責に身の引きしまる思いがしております。私の専門分野である小児医療は、専門分化が進むとともに医療圏もますます広がることが予想され、それに伴い遠隔地から入院される患者さんも多くなります。そうした患者さんのご家族を支えるのがドナルド・マクドナルド・ハウスです。毎日厳しい状況下で付き添いにあたっているご家族に少しでもくつろいでいただきたい、そして笑顔で入院中のお子様に接していただき、1日も早く良くなってお家に帰っていただきたいという思いを一杯にして、1,000人を超えるボランティアの方々がハウスの運営を支えてくださっています。

ハウスを整備し、それを運営していくには、莫大な費用がかかります。日本マクドナルド株式会社をはじめ多くの企業からのご寄付、個人から頂戴する浄財、マクドナルドの店舗内の募金箱に入れてくださる善意、これらすべてのお蔭でハウスは成り立っています。一方、ハウスを必要とされている方々はまだまだ多く、財団は、今後も不断の活動を継続していかなければなりません。私たちは、今後とも病気のお子さんとそのご家族のために努力していく所存ですので、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

First of all I would like to express my deepest condolences and sympathy to everyone affected by the Tohoku-Pacific Ocean Earthquake and everyone with ties to the affected areas.
Among the Houses operated by RMHC Japan is the “RMH Sendai” located in Sendai. Although we were able to contact the House immediately after the earthquake and learned that the building was apparently undamaged and that the guests were unhurt, we subsequently lost contact for several days and were very concerned about the safety of the House staffs and guests. As lifelines were disrupted, the House was opened to families of patients who could not go home from the hospital. We accordingly dispatched a vehicle filled with food, powdered milk, and electric blankets collected from the other Houses across Japan and also substitute House manager personnel. Thanks to the collaboration of the seven Houses across Japan, we were able to provide the greatest reassurance to the patients and their families. I would like to thank the efforts of the House staff, who communicated with the hospital and took the necessary actions while forcing down their concerns about their own families.
This is a commemorative year for RMHC Japan as we mark the 10th anniversary of the opening of the “RMH Setagaya”, the first House opened in Japan. In addition, “RMH Todai” is scheduled to be opened in December.
Meanwhile, former Chairman Shigekoto Kaihara, who committed considerable energy to bringing the RMH efforts to Japan, passed away in January. Under Professor Kaihara’s unwavering dedication, I became involved in the RMHC activities from an early stage, mainly from a medical institution position. I have recently assumed the position of Chairman and am preparing myself for this large responsibility. My specialty is pediatric medical care, and the medical care zone for this field is anticipated to expand as specialization advances, with a corresponding increase in hospitalized patients from remote areas. Under these circumstances, it will be the RMH that support the families of these patients. While the families are focused on staying by their children during such difficult times, the Houses are operating under the support of more than 1,000 volunteers who offer their time with the hope that their services can help these families rest and relax, interact with their hospitalized children with smiles on their faces, and return home as quickly as possible.
Developing and operating the Houses is a very expensive endeavor. The Houses are in existence thanks to contributions from McDonald’s Company (Japan), Ltd. and many other companies, donations from individuals, and the generous contributions made to the donation boxes located in the McDonald’s restaurants. On the other hand, there are still many people who require the Houses, and in response RMHC Japan will need to continue our ceaseless efforts. Your further support will be very much appreciated as we continue to work for children battling illness and their families.

公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン

専務理事　**廣瀬 修**

Osamu Hirose
Chief Executive Director
Donald McDonald House Charities Japan

近年では記憶にない大震災が日本の東北、関東を襲いました。報道手段の進歩によって被災地から刻々と送られてくる映像に私たちは震撼とし暗澹たる気持ちになりました。その一方私たちの仙台のハウスや関連のハウスはその力を充分に発揮しています。「せんだいハウス」は病院と連携して患者さんやそのご家族の安全を守り、「とちぎハウス」「せたがやハウス」「ふちゅうハウス」は被災地から送られてくる患者さんのために適切な処理をしています。そして「こうちハウス」「さっぽろハウス」からは家に帰らないで頑張っているハウスマネージャーの交代要員として駆けつけました。当財団は設立12年が経過し、1号ハウスが世田谷に建設されてから10年が経ちましたが、その間に培われた連帯感は素晴しく日本の中でゆるぎない役割を完遂していると確信しています。被災者の方々の1日も早い復興を心から祈らずにはいられません。

私は長年米国の企業で仕事をしていた関係で、米国では法人でも個人でもボランティアに参加して地域活動に貢献するということが非常に日常的に行われていることを目の当たりに経験していました。日本においてもボーイスカウトを始め数多くのボランティア活動に参加してまいりましたが、このドナルド・マクドナルド・ハウスの活動に参加するようになって、この活動はまさに米国的な相互互助そのものであり、その理念がそのまま日本で踏襲されていることに多少の驚きと感嘆を覚えたものです。その米国で生まれた理念がいまや世界中で約300のハウスを誕生させる大きな力に育っています。その理念を日本に導入したのは開原成允前理事長でありますが、去る1月12日に急逝されたのは誠に残念でなりません。しかし、我われは立ち止まることはできません。幸い後任の柳澤正義氏は小児医療の権威でもあられ全幅の信頼が置ける方です。新理事長を補佐して公益財団法人としての責務を果たしていこうと決意も新たにしております。

皆々さまの更なるご理解、ご支援を衷心よりお願い申し上げます。

The Tohoku and Kanto Areas in Japan were hit by an earthquake of an unprecedented scale in recent years. Visual images of affected areas delivered by mass media every minute horrified and profoundly depressed us. In this devastating disaster, our Sendai and other Houses have been exerting their full potentials. The Sendai House protected the safety of patients and their families in cooperation with its allied hospital. The Tochigi, Setagaya and Fuchu Houses have been providing appropriate support to patients sent from the affected areas. From the Kochi and Sapporo House, staff members rushed over to the Sendai House as temporary replacement for its house manager who had been away from home and stayed in the house to support patients and families staying in the House after the earthquake.
It has been 12 years since establishment of the RMHC Japan and 10 years since the opening of out first House In Setagaya. I am confident that we have built a great sense of solidarity that led us accomplish a solid role in Japan. I truly hope people who are suffering from the earthquake will construct their lives as soon as possible.
As I worked in the United States for many years, I witnessed that many companies as well as individuals participated in community activities as volunteers on a daily basis. In Japan, I have participated in the Boy Scouts and other numerous volunteer activities. I also participated in the RMHC activities and have realized that the RMHC activities are indeed activities of mutual assistance and cooperation like those I experienced in the U.S. I was a little surprised and really impressed to know that this philosophy of mutual support is truly in practice in Japan. This philosophy, born in the U.S., is now developing into a powerful force that has given birth to around 300 Houses around the world. The philosophy was introduced into Japan by former chairman, Dr. Shigekoto Kaihara, and I was extremely sorry for his sudden passing on January 12, 2011. Yet we must keep moving forward. It is great pleasure that Dr. Masayoshi Yanagisawa, an expert of pediatric healthcare whom we can place complete trust in, has been appointed as chairman to take the place of Dr. Kaihara. I have reaffirmed my determination to support the new chairman in fulfilling our roles as a public interest incorporated foundation.
I will truly appreciate your continued understanding of and support to our activities.

東京都立小児総合医療センター

院長　林 奐

Akira Hayashi
Director of Tokyo Metropolitan children's Medical Center

子どもたちは、両親や兄弟など家族と家庭で、友達や先生と学校で、地域の様々な人々と地域社会の中で交流しながら成長していく存在です。このことは病気を持った子どもたちにとっても例外ではあり得ません。子どもの病院は、病気を治療する場であるだけでなく、広く社会に向かって門戸を開けて手を結んでいかなければならないと私たちは考えています。病を持った子どもたちが様々な支援を受けながら社会の中で健全に育ち、やがて家庭からも私たちの子ども病院からも自立して、どんな形でもいいから社会の中で人々の役にたつ生き方ができるように、私たちは願い祈りながら毎日の診療を行っています。このような考え方にたって、私たちのセンターは、5つの理念のうちの一つとして「社会とともに創る医療の提供」を掲げています。

それを実現するひとつの手段として、私たちは新センター開設にあわせて、「子ども家族支援部」を創設しました。そこでは、医師、看護師に加えて臨床心理士、医療社会福祉士（MSW、PSW）、保育士などの数多くの専門家が、病気と闘っている子どもとその家族が抱える問題を解決するため、早期退院支援、虐待への対応、リエゾン医療、在宅医療や移行医療などなど様々な課題に取り組み、社会とセンターを繋ぐ努力をしています。ボランティアの受け入れもその一つです。

ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンは、病に悩む子どもとその家族のために、家族が、時には子どもも一緒にくつろいで滞在する施設を運営してくれています。多摩メディカルキャンパスでも、「ドナルド・マクドナルド・ハウス　ふちゅう」がわが国で7番目のハウスとして昨年3月に誕生し、そこでも数多くのボランティアの皆さんが尊い働きをしてくれています。全国、あるいは東京でも島嶼からたくさんの子どもたちが当センターでの治療のために入院しています。自宅から遠く離れて来ている子どもとその家族は、ボランティアの皆さんによってどんなにか力づけられていることでしょうか。心から感謝し、ボランティアの輪がセンターとふちゅうハウスとをいよいよ強く結び付けてくれるよう願っています。

Children grow through interactions with their parents, brother /sisters and other family members at home, with friends and teachers at school and with various people in their communities. And children suffering disease are no exception. We believe that children's hospitals are not only places to receive medical care but must widely open their doors to and partner with the society. I provide medical care to sick children every day in hope and pray that they will grow healthily in the society with various supports and become independent from their home and our children's hospital and able to play a part in the society in any way to be of help of others. Based on this idea, our center aims to create and provide medical care in partnership with the society as one of its 5 visions.

As a means to accomplish the vision, we established A "Children and Families Support Department" as the new center opened. In the department, doctors and nurses work together with clinical psychotherapists, medical social workers (MSW / PSW), nursery teachers and other specialists to solve various problems suffered by sick children and their families including support for early discharge from hospital, actions against child abuse, liaison psychiatry, home medical care and transitional care, and make efforts to create ties between the center and the society. Acceptance of volunteers is a part of these efforts.

DMHC operate facilities that provide accommodations to seriously ill children and their families where the families make themselves at home, occasionally with their children. The DMH in Fuchu opened as the 7th House in Japan on the Tama Medical Campus in March 2010 where many volunteers perform valuable functions. Children from all over Japan including the remote islands in Tokyo Prefecture are staying in the center for medical care. And how reassured and empowered by these volunteers these children and families away home are! I am truly thankful for their support and hope that the circle of volunteers will create stronger ties between the center and the Fuchu House.

国立療養所多磨全生園

園長（元厚生労働省医政局長）　松谷 有希雄

Yukio Matsutani, M.D.
President
National Sanatorium Tamazenshoen
(Former Director General
Health Policy Bureau
Ministry of Health, Labour & Welfare)

日本のドナルド・マクドナルド・ハウスの活動が、財団設立から10年余を経て大きく発展されていることを、医療行政に与った者として、そして一人の小児科医として喜びたいと思います。

ハウスの生みの親とも言うべき米国フィラデルフィア小児病院のオードリー・E・エヴァンス先生は、私が研修医として指導を受けた聖路加国際病院小児科の西村昂三部長のボストン小児病院での同僚です。エヴァンス先生が、小児白血病の化学療法を開拓し小児がんのトータル・ケアを主導したシドニー・ファーバー先生のもとで、西村先生とともに専門医を目指し働いていたことを、研修中よく伺いました。

西村先生は、帰国後、ファーバー先生のジミー・ファンド・ドライヴ（小児がんのための基金活動）をモデルに「（財）がんの子供を守る会」の組織化に尽力され、その後1990年頃からは、エヴァンス先生の勧めもあって、日本でのハウス設立に動かれました。当時、日本マクドナルド社とも相談したようですが、まだ機は熟しておらず、自治体の提供する小規模な部屋の確保に止まったと聞いております。

それら幾つかの前駆的な動きを経て、96年には、先般急逝された開原成允前理事長が国立大蔵病院（国立小児病院を統合して成育医療センターとなることが決まっていた）院長に就任され、間もなく、ハウス実現に向け精力的に働かれました。日本マクドナルド社の理解、協力を得て、多くの関係者の努力が実を結び、遂に99年に財団設立に漕ぎつけたと開原先生から伺いました。その背景には、この間、95年の阪神淡路大震災などを経て、日本での寄付とボランティア活動とが一般に定着し始めたことがあります。それは、今回の大震災に際しての皆の行動にも表れているように思います。

企業、個人のフィランソロピーと地域住民等のボランティア活動の組み合わせは、社会が医療を支えるわが国における新しい形です。ドナルド・マクドナルド・ハウスは、日本の新しい文化を育てていると言えましょう。財団と各地のハウスの活動に、心からエールを送りたいと思います。

I am pleased as an individual involved in the administration of medical affairs and as a pediatrician that activities of Donald McDonald Houses in Japan have greatly grown after more than 10 years passed since the foundation of the Donald McDonald House Charities Japan.

Dr. Audrey E. Evans at Children's Hospital in Philadelphia, the U.S, one of founders of Ronald McDonald Houses, was used to work at Children's Hospital in Boston with Dr. Kozo Nishimura, director of the pediatric department of St. Luke's International Hospital from whom I received training as a resident. He often told me about his days working with Dr. Evans to become a medical specialist under the direction of Dr. Sidney Farber who developed childhood cancer chemotherapy and led total care of children's cancer.

After his return to Japan, Dr. Nishimura expended his effort in organizing the "Children's Cancer Association of Japan (CCAJ)" by modeling after the Jimmy Fund Drive (a fund activity for children's cancer) established by Dr. Farber. Since around 1990, he also worked for foundation of DMH in Japan at Dr. Evans's recommendation. I heard that he had consulted McDonald's Japan about establishment of Houses in Japan then but the time was yet unripe and his efforts ended with securement of small rooms provided by municipalities.

After some precursory actions, Dr. Shigekoto Kaihara, former chairman of DMHC who passed away recently, assumed the position of director of the National Okura Hospital (that was to integrated with National Children's Hospital for establishment of National Center for Child Health and Development), and soon started his vigorous efforts to open DMH in Japan. Dr. Kaihara told me that the DMHC was finally founded in 1999 with understanding and cooperation of McDonald's Japan and efforts of many people involved. Behind Its establishment is the fact that donations and volunteer activities started taking root in general in Japan since the Great Hanshin-Awaji Earthquake. And this fact seems to be reflected also on Japanese people's actions after the recent catastrophe.

Combination of corporate and personal philanthropies and volunteer activities by local people, etc. is a new mechanism in Japan in which the society supports medical care. We can say DMH are fostering a new culture in the country. I would like to send hearty cheers to the DMHC and its Houses all over Japan.

Photo by Akira Hayashi
Photo by Yukio Matsutani

故開原理事長の急逝を悼んで

故開原理事長は心の底からドナルド・マクドナルド・ハウスを愛しておられました。

それはご自身が医療者の一員として、ハウスの存在が医療に厚みをもたらすと信じておられたからです。約14年前、「日本に最初のドナルド・マクドナルド・ハウスを」という大いなる希望を実現すべく活動を始められてから実に7つのハウスが実現しました。ご出身大学である東大ハウスの完成を見ることなく急逝されたことは心残りであったと残念ですが、日本にドナルド・マクドナルド・ハウスの建設が急ピッチで進んだことは心の底から喜んでおられることと思います。日本にハウスを運んでくださった故開原理事長を偲んで歴史を振り返ってみました。

「日本にもドナルド・マクドナルド・ハウスを」ということで当時の日本マクドナルド株式会社の故藤田田氏に頼みに行きゴーサインをだしていただき1、その後財団法人を立ち上げるため当時厚生省の病院部長、社会・援護局長だった炭谷氏2に協力していただいた頃の写真。

故開原理事長、故藤田田氏、炭谷茂氏なしには今頃日本にハウスは存在していなかったかもしれません。

初代の故木村尚三郎先生から理事長を受け継がれてから5つのハウスのオープンにかかわられました。「こうちハウス」、「おおさか・すいたハウス」、「とちぎハウス」、「さっぽろハウス」、「ふちゅうハウス」です。「おおさか・すいたハウス」オープン時は尾辻厚生労働大臣（当時）からじきじきに感謝状も授与されました。また、ドナルド・マクドナルド・ハウス財団アメリカ本部のジャネット氏から認定書も授与されました3。

2011年1月12日、故開原成允理事長が解離性動脈瘤のために逝去されました。故開原理事長に心よりお礼と哀悼の意を表します。

財団主催のチャリティーパーティーも6回を数え、年々認知度もあがり参加者が増えております。その席でいつも支援してくださる企業、個人に対してお礼とお願いの挨拶をしてくださいました5。「ハウスは寄付をしてくださる方と労働力を提供してくださるボランティアの力」とボランティアの方にお礼を言う機会をもとめられていました。また2009年には財団が設立してから10年間、病気の子ども達をサポートし続けたことが表彰され、厚生労働大臣より2度目の感謝状をいただきました4。

アメリカ・シカゴで開催されたグローバルのコンベンションにも参加され、セッションにも積極的に出席し最前列でしっかりと聞いて質問もなさっていました。常に場を楽しまれていたことが印象に残っています。また世界第一号のフィラデルフィアハウスの誕生のきっかけになったフレッド夫妻やジム・マリー氏とも会うことができ、感銘をうけていらっしゃいました6。

1974年に初めてのドナルド・マクドナルド・ハウスが出来たときに、力強い指導をしてくださったオードリー・E・エヴァンス先生を招聘した折の写真です。講演後には「せたがやハウス」5周年のクリスマスパーティーを開催し、お箏のクリスマスソングに合わせ大きな声でお歌いになっていたのが印象的です。エヴァンス先生を囲んで現柳澤理事長と谷村有美さんも一緒に写っている記念すべき写真です7。

ご逝去の2日前の日本マクドナルド株式会社の賀詞交換会において、財団の支援を掲げて初の東京マラソンにてチャリティーランをされる原田泳幸CEOに感謝する挨拶をされているところです8。音楽会を楽しみ、パーティーを楽しんでおられました。誰もが予想できなかったご逝去でした。後任の柳澤理事長のご指導のもと、故開原理事長の理念を引き継いで社会が医療を支援する輪を広げたい、と願っております。

House Information
ハウス活動内容

Donald McDonald House
2010年の利用家族
3,397家族

Donald McDonald House Setagaya
ドナルド・マクドナルド・ハウス　せたがや

■ハウス情報
住所：〒157-0074　東京都世田谷区大蔵2-10-10
電話：03-5494-5534
FAX：03-3749-2267
延べ床面積：1,744.29㎡
規模：地上4階建て、地下1階
ベッドルーム数：21室

■施設概要
2001年12月に誕生した国内第1号の「せたがやハウス」は国立成育医療研究センターに隣接して建てられました。小児ベッド数が460床ある国立成育医療研究センターには、全国各地から患者が入院または通院しています。

■2010年実績
利用家族数：759家族
総宿泊数：6,378泊
平均滞在日数：8.4日
ボランティア登録者数：224名
ボランティア活動時間数：16,112時間

「ドナルド・マクドナルド・ハウス せたがや」には、いつも手作りの温かさがあります。施設の隅々にまでいきとどいた心配りを感じます。そんなハウスだから、ご家族は安心してひとときを過ごすことができるのでしょう。
　滞在施設としての便利さだけではなく、心身ともに元気を回復させてくれるパワーがあるようです。ハウスを支えてくださっている多くのみな様に感謝いたします。
　子どもたちの幸せと一日も早い回復のために、これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

国立成育医療研究センター
副院長・看護部長　石井 由美子

■収支報告（単位：円）

収入	
利用料	9,223,000
寄付金収入	1,777,051
会費収入	1,452,000
その他	61,289
財団補助額	14,618,462
合計	27,131,802

支出	
給料手当	9,142,735
水道光熱費	5,923,141
什器備品費	731,157
租税公課	5,113,400
その他	6,221,369
合計	27,131,802

Donald McDonald House Sendai
ドナルド・マクドナルド・ハウス　せんだい

■ハウス情報

住所：〒989-3126　宮城県仙台市青葉区落合4-5-3
電話：022-391-1233
FAX：022-392-5535
延べ床面積：1,679.36㎡
規模：共有棟（平屋建て）、宿泊棟（2階建て）
ベッドルーム数：16室

■施設概要

2003年11月に誕生した国内第2号目の「せんだいハウス」は宮城県立こども病院のそばに建てられました。こども病院は160床あり、ハウスは主に東北地方からの患者家族が利用しています。

■2010年実績

利用家族数：909家族
総宿泊数：2,880泊
平均滞在日数：3.2日
ボランティア登録数：162名
ボランティア活動時間数：12,882時間

「ドナルド・マクドナルド・ハウス せんだい」はJR陸前落合駅からこども病院まで徒歩約12分の中程にあり、ハウス正面には蕃山の山並みを臨みます。歩道の桜木、前庭の夏草、蕃山の紅葉や風雪に四季折々のハウスが存在します。

大震災ではガス・電気不通の中、患者家族を多数受入れていただき有難うございました。患者家族にとっては被災地にかわる正に我が家でした。この難局を共に乗越えることで、ハウスとこども病院の絆はさらに強くなると確信します。

こども病院に飾られているレリーフ「おおきなかぶ」
（宮城県の彫刻家、佐藤忠良さんの作品）

宮城県立こども病院
副院長兼成育支援局長　今泉 益栄

■収支報告（単位：円）

収入	
利用料	4,029,900
寄付金収入	1,177,253
会費収入	683,000
その他	305,985
財団補助額	15,496,132
合計	21,692,270

支出	
給料手当	8,516,356
水道光熱費	5,202,821
什器備品費	1,291,605
租税公課	1,084,488
その他	5,597,000
合計	21,692,270

Donald McDonald House Kochi
ドナルド・マクドナルド・ハウス　こうち

■ハウス情報

住所：〒781-0111　高知県高知市池953-10
電話：088-837-3650
FAX：088-837-3652
延べ床面積：1,180.72㎡
規模：平屋建て
ベッドルーム数：16室

■施設概要

2005年2月に誕生した国内第3号目の「こうちハウス」は同時期に開院した高知医療センターのそばに建てられました。高知医療センター内には母子医療センターがあり、ハウスには小児の患者家族が宿泊しています。

■2010年実績

利用家族数：259家族
総宿泊数：643泊
平均滞在日数：2.5日
ボランティア登録者数：74名
ボランティア活動時間数：9,554時間

「ドナルド・マクドナルド・ハウス こうち」は6年経過しました。鯨が泳ぐ太平洋をイメージしたその美しい建築美は、子供やハイリスクの妊婦の利用者をお待ちしています。見学者も多く、心から楽しんでいただけるように、いつも美しい花に飾られ、常にボランティアの方によって手入れされています。認知度の低さが難ですが、利用いただいた誰からもお褒めをいただき、これからはその認知も増えてくるものと期待しています。

高知医療センター
病院長　堀見 忠司

■収支報告（単位：円）

収入	
利用料	799,000
寄付金収入	560,204
会費収入	312,000
その他	48,336
財団補助額	13,485,025
合計	15,204,565

支出	
給料手当	7,719,530
水道光熱費	2,561,984
什器備品費	349,000
租税公課	110,600
その他	4,463,451
合計	15,204,565

Donald McDonald House Osaka-Suita

ドナルド・マクドナルド・ハウス　おおさか・すいた

■ハウス情報

住所：〒565-0875　大阪府吹田市青山台4-31-20
電話：06-6836-6551
FAX：06-6831-7611
延べ床面積：1,292.88㎡
規模：共有棟（平屋建て）、宿泊棟（2階建て）
ベッドルーム数：18室

■施設概要

2005年10月に誕生しました国内4号目の「おおさか・すいたハウス」は、国立循環器病研究センターの向かい側に建てられました。国立循環器病研究センターは小児病院ではありませんが、全国から心臓病の患児が入院または通院に来ています。入院患者の家族の宿泊場所がなく困っていたことから病院および自治体からハウス建設の依頼を受け、ハウス建設が実現しました。

■2010年実績

利用家族数：423家族
総宿泊数：3,779泊
平均滞在日数：8.9日
ボランティア登録者数：136名
ボランティア活動時間数：12,824時間

「ドナルド・マクドナルド・ハウス おおさか・すいた」は私たちの診療の最重要パートナーです。国立循環器病研究センターは「循環器病の制圧」を目標とするナショナルセンターで、心筋梗塞や脳卒中などご高齢の患者さんが多いのですが、小児の心臓病、なかでも先天性心疾患の診療もセンターの大きな役割となっていて、これにハウスが有効に活用されています。ハウスの支援は宿泊の便宜に止まらず、そこでのふれあいや各種の催しなど、患児とご家族にとって計り知れないものがあり、感謝の言葉も数多く聞かれています。

国立循環器病研究センター
病院長　内藤 博昭

■収支報告（単位：円）

収入	
利用料	5,142,000
寄付金収入	2,958,743
会費収入	813,000
その他	867,987
吹田市補助金	3,936,520
財団補助額	8,060,753
合計	21,779,003

支出	
給料手当	8,159,511
水道光熱費	3,886,187
什器備品費	313,950
租税公課	5,278,310
その他	4,141,045
合計	21,779,003

Donald McDonald House Tochigi

ドナルド・マクドナルド・ハウス　とちぎ

■ハウス情報

住所：〒329-0434　栃木県下野市祇園2-36-3
　　自治医科大学2号館3階
電話：0285-58-7551
FAX：0285-44-4154
延べ床面積：652.9㎡
ベッドルーム数：7室

■施設概要

2006年9月に誕生しました国内第5号目の「とちぎハウス」は自治医科大学とちぎ子ども医療センターの向かい側に開設されました。とちぎハウスは、自治医科大学の建物の一部を無償でお借りし、県の補助金を使って大学側に内装整備していただいたニューモデルのハウスです。

■2010年実績

利用家族数：393家族
総宿泊数：1,809泊
平均滞在日数：4.6日
ボランティア登録者数：187名
ボランティア活動時間数：11,467時間

次男は約25年前に自治医科大学附属病院に入院しました。長距離運転をしたことがなかった妻は、次男に付添い毎夜遅く帰宅していました。このときの気持ちが「ドナルド・マクドナルド・ハウス とちぎ」応援の原点です。

その後、阪神淡路大震災で、てんかん支援センターの運営を支援しました。支えるボランティアは、燃え尽きてはいけない、明るくなければいけないことを学びました。

今は、ハウスのボランティアさんの笑顔から、私も元気をいただいています。

NPOとちぎボランティアネットワーク
監事　鈴木 勇二

■収支報告（単位：円）

収入	
利用料	2,579,000
寄付金収入	2,495,383
会費収入	567,350
その他	242,194
運営費負担金	4,169,500
財団補助額	3,569,683
合計	13,623,110

支出	
給料手当	8,449,013
水道光熱費	2,003,225
什器備品費	254,100
その他	2,916,772
合計	13,623,110

Donald McDonald House Sapporo

ドナルド・マクドナルド・ハウス　さっぽろ

■ハウス情報

住所：〒006-0041　北海道札幌市手稲区金山1条
　　1丁目2-5
電話：011-688-4533
FAX：011-691-8866
延べ床面積：994.2㎡
規模：平屋建て
ベッドルーム数：10室

■施設概要

2008年12月に誕生しました国内第6号目の「さっぽろハウス」は北海道立子ども総合医療・療育センター（通称：コドモックル）の向かい側に開設されました。コドモックルは210床あり道内から多くの患者が入院・通院しています。

■2010年実績

利用家族数：477家族
総宿泊数：2,454泊
平均滞在日数：5.1日
ボランティア登録者数：191名
ボランティア活動時間数：13,475時間

「ドナルド・マクドナルド・ハウス さっぽろ」は、今年で3回目の春を迎えました。このハウスを利用されている多くの患者さまとご家族のみなさまにとって、ハウスの職員の方やボランティアの方々の暖かな心遣いは、まさに「自宅で家族に囲まれているような印象」を受けられていることと思います。

「日常を大切にする」ハウスに心より感謝しております。

北海道立子ども総合医療・療育センター
看護部長　吉田 郁子

■収支報告（単位：円）

収入	
利用料	3,853,000
寄付金収入	1,103,682
会費収入	234,000
その他	132,857
財団補助額	11,720,981
合計	17,044,520

支出	
給料手当	7,612,600
水道光熱費	3,928,530
租税公課	1,304,600
構築物購入支出	1,050,000
什器備品費	115,290
その他	3,033,500
合計	17,044,520

Donald McDonald House Fuchu

ドナルド・マクドナルド・ハウス　ふちゅう

■ハウス情報

住所：〒183-0042　東京都府中市武蔵台2丁目9-2
　　東京都立多摩・小児総合医療センター宿泊棟1階
電話：042-300-4181
FAX：042-325-2266
延べ床面積：688.3㎡
ベッドルーム数：12室

■施設概要

2010年3月、東京都府中市に日本第7号目のふちゅうハウスがオープンしました。東京都立小児総合医療センターの隣接地に建てられたハウスは、病院の宿舎棟の1階部分を無償でお借りし、12家族が滞在可能です。

■2010年実績

利用家族数：177家族
総宿泊数：1,520泊
平均滞在日数：8.6日
ボランティア登録者数：170名
ボランティア活動時間数：10,431時間

武蔵野の森の一角に私たちの小児総合医療センターがドナルド・マクドナルド・ハウスとともに産声を上げて早いもので1年になります。大きさこそ違いますが、センターとハウスがよいパートナーとして歩んでこられたことを本当にうれしく思います。ボランティアさんとの生き生きとした協働作業の様子からも、大変に多くのものを教えていただきました。

この先、センターはますます専門性の高い医療を目指すようになり、それにともなって遠くからも治療を求める子どもたちが多く訪れるようになると思われます。そうすると、ふちゅうハウスとの関係もますます重要になるにちがいありません。これからも長いおつきあいをよろしくお願いします。

東京都立小児総合医療センター
副院長　田中 哲

■収支報告（単位：円）

収入	
利用料	2,080,000
寄付金収入	5,708,758
会費収入	129,000
その他	250,685
運営補助金	4,587,031
財団補助額	17,225,237
合計	29,980,711

支出	
給料手当	8,437,585
水道光熱費	262,668
什器備品費	3,915,450
その他	17,365,008
合計	29,980,711

Volunteer Activities
ボランティア活動

オムロンフィールドエンジニアリング株式会社

5月11日オムロンフィールドエンジニアリング株式会社の皆様がせたがやハウスで清掃ボランティアをしてくださいました。

同社は毎年、会社創立日をボランティアデーとしていろいろな団体を訪問して、ボランティア活動を行なっているそうです。そして今年も9名の方がせたがやハウスに来てくださいました。

毎年、庭の雑草取りをしてくださっていましたが、当日あいにくの雨で急遽室内の清掃を行ってくださいました。普段手の行き届かない場所を一生懸命清掃して頂き、室内も大変綺麗になりました。

ビズキューブ・コンサルティング株式会社

ビズキューブ・コンサルティング株式会社の社員の皆様が、せたがやハウス、ふちゅうハウスそしておおさか・すいたハウスにて同日にボランティア活動をしてくださいました。各ハウスではそれぞれベッドルームの網戸掃除や靴箱用に炭をくだいて脱臭剤にする作業、庭の雑草取り、電灯や高いところなど普段手の届かない場所を清掃してくださいました。普段から社会貢献活動をされているそうで、手際のよさには驚くばかりでした。

北海道小樽高等支援学校

さっぽろハウスに隣接する北海道小樽高等支援学校は、校外授業の一環として就業体験をしており、ハウスは受け入れ先の1つで高校1年生と2年生が毎月ハウスでボランティア活動を行なっています。この活動以外にさまざまな学科がハウスをサポートしており、生活家庭科はタオルや布で雑巾やエコバックの作成、木工科はハウスの営繕や棚、収納ボックスを作成、さらに生活技術科はグラスや時計にサンドブラスト加工し、ハウスのロゴマークやネームを入れる作業を行い、ハウスの広報活動を支援してくださっています。

イベント時の手伝いや駐車場の清掃など幅広い分野でもハウスをサポートして頂いています。逆にハウスは生徒達が社会に出るための第一歩として活動の場を提供し、互いにいい関係を築いています。

Grant & International Exchange Programs
助成事業および国際交流、国内外研修派遣事業

ボランティア活動費助成

難病児およびその家族を支援する福祉、医療分野におけるボランティアへの助成事業を行い、2010年度は7団体に助成をいたしました。

助成先	助成額
きょうだい児支援ボランティア連	250,000円
小児神経難病の児と家族を支援する会	250,000円
心臓病のこどもの集い「こばと園」	250,000円
日本二分脊椎症協会	230,000円
国立成育医療研究センターおもちゃライブラリー	100,000円
東邦大学医療センター大森病院ひだまりの会	100,000円
財団法人がんの子どもを守る会(香川支部)	30,000円
助成総額	1,210,000円

助成先からの報告

小児神経難病の児と家族を支援する会

『神経科おやこサマーキャンプ』は国立成育医療研究センターの神経科を受診している患者とその家族のリフレッシュを目的に1983年から実施されています。今年は8月6日～8日の日程で神奈川県いこいの村あしがらで開催されました。

看護師やボランティアも同行するため家族は医療関係者や他の家族と安心して親睦をはかることができます。今回は患児と家族39名、医師・看護師5名、ボランティア11名が参加しおやこキャンプを楽しみました。この日を目標に、一年間、体調を整え、準備を整え、普段は入院などで揃う事の少ない家族が安心の出来る環境で楽しみます。

患者とその兄弟が手芸や工作ができるようブースを用意し、思い思いの作品づくり。また、恒例のバーベキュー大会は、経管栄養や刻み食の子どもも、そろって屋外で賑やかに食事をします。病院の全面協力のあり、穏やかな時間を過ごせると家族から感想が寄せられています。

Others
いろいろなサポート

楽天ゴールデンイーグルス

楽天イーグルス「ドリームシート」は楽天球団と企業・諸団体がパートナーシップを組み、地域の皆様をクリネックススタジアム宮城へ招待し、野球を通じた福祉活動やスポーツ振興に取り組む社会貢献事業です。

せんだいハウスに滞在しているご家族とボランティアの皆さんに勇気と元気を受け取って欲しいという願いから、公式戦6試合それぞれ10席のドリームシートをプレゼントして頂きました。

株式会社神田産業

北海道苫小牧市にある株式会社神田産業は、子どもが自由に書いた落書きを素敵な「絵・アート」にして販売するという事業をされています。この事業を生かし、社会貢献活動として入院中の子ども達が誕生日を迎えたときに、その子どもの絵を作品にしてご家族にプレゼントしてくださっています。一つの作品に仕上がったサプライズプレゼントにご家族もそして絵を描いた子どもも大喜びです。

カーブスジャパンフードドライブ

女性だけの30分フィットネスチェーンを全国展開する株式会社カーブスジャパン。毎年地域密着型社会貢献活動として、フードドライブ活動を行っています。フードドライブ活動とは家庭にある缶詰、調味料などの長期保存可能な食料品を集め、地域の社会福祉施設などに寄付をする活動です。

カーブス武蔵小山店そして戸越店にて集まった食料品をせたがやハウスに届けてくださいました。

ハウスの利用者は付き添いや看病のため、時には時間的に不規則な生活を強いられることもありますが、そんな時はすぐ食べられる食料品がとても重宝されています。

NPO法人情熱の赤いバラ協会

新しい広告メディアとして注目を集めている「デジタルサイネージ」。大阪の阪急バスの千里・豊中営業所にある、バス車両100台にディスプレイが設置され広告が放映されています。

NPO法人情熱の赤いバラ協会のご支援で、おおさか・すいたハウスの広告を作成していただきバス内で放映し、地域での広報活動をご支援いただきました。

ドナルド・マクドナルド・ハウスを知らない方にも知っていただけるいいきっかけとなりました。

「ドナルド・マクドナルド・ハウス 東大」募金委員会

「ドナルド・マクドナルド・ハウス　東大」を建設するにあたり、建設予定地の埋蔵文化財調査が必須となり、建設費以外の費用が必要となりました。東大ハウスの建設を希望している東京大学医学部附属病院の関係者が中心となり募金委員会を組織し、埋蔵文化財調査費用のための寄付の呼びかけを行ってくださっています。5,000万円を目標に小児科を中心にした東大医学部OBに呼びかけを行ってくださっています。

Messages from the Families
ご家族からのメッセージ

柴田香歩(かほ)ちゃん
埼玉県　0歳
せたがやハウス

定期的に通院していますがとても元気です。
1歳の誕生日を迎え、毎日娘の笑顔に癒されています。

河合佑真(ゆうま)くん
静岡県　4歳
おおさか・すいたハウス

佑真は現在手術のため自宅にて待機しています。
ハウス滞在中は温かい雰囲気も手伝っていろんな方と交流ができました。
これからもハウス利用をきっかけに多くの人との出会いを楽しみにしています。

小松初花(うぶか)ちゃん
高知県　12歳
おおさか・すいたハウス

2回の手術を経験しましたが、今は元気に学校にも通い、春からは中学生です。
退院した日にはハウスのキッチンで夕飯の支度をし、親子で一緒に料理をするという幸せな時間を過ごしました。

神永麗温(れおん)くん
愛知県　2歳
せたがやハウス

２病院４科の通院に加え親子教室やリハビリ検診も行っています。
１年前に退院してからは、入院せずに家で過ごす日数を絶好調に更新中！
このままで元気でいてほしいと祈る日々です。

山森姿月(しづき)ちゃん
石川県　6歳
せたがやハウス

いまでも半年に一度の割合で通院していますが今春には無事に保育園を卒園しました。
4月からは1年生になります。

荻原諒(りょう)くん
千葉県　9歳
とちぎハウス

年に何度か通院していますが元気に小学校に通っています。
4年間続けている空手も上手になり、先生にも誉めてもらえるようになりました。

国内第7号 ドナルド・マクドナルド・ハウス ふちゅう オープン

3月2日（火）に国内第7号目となる「ドナルド・マクドナルド・ハウス ふちゅう」の開所式が行われました。翌日がひな祭りということで、会場であるハウス内には大きな雛人形が飾られ、お客様をお迎えしました。開所式は都立小児総合医療センターの林病院長やいつもご支援いただいている日本マクドナルド株式会社の原田CEOにご出席いただき和やかな雰囲気の中、行われました。

東京都における小児医療の拠点となる「都立小児総合医療センター」に入院または通院している患者とその家族を支援するハウスは最大で12家族が滞在できるハウスです。延べ床面積が約690㎡のハウスでは、155名のボランティアの皆さんが温かいハウス作りに努め、ハウスの運営にあたっています。

世界300号 ハウスが オープン！！

9月29日（水）にアメリカのセントルイスに世界300号目のハウスが誕生しました。

セントルイスハウスがサポートするウエストカウンティー病院には、年間で700人の子ども達が遠くから治療のためにやってきます。今後はハウスに滞在しながら通院したり、家族は入院している子どもにずっと付き添い、共に病と闘うことができます。

またハウスの活動を支援しているアメリカの新聞社USA Todayは、300号ハウス誕生を記念し、一面広告を掲載してくれました。

1974年、フィラデルフィアに最初のハウスが誕生してから36年が経過。

ドナルド・マクドナルド・ハウスの活動は世界各国に広がっています。

岩隈投手 2度目の ハウス訪問

12月22日（水）昨年に引き続き、楽天ゴールデンイーグルスで大活躍の岩隈投手がせんだいハウスを訪問してくださいました。

クリスマス前ということでハウスを利用したことのある子ども達18名とクリスマスの飾り付けをしてくれました。みんなでクリスマスツリーを完成させた後は岩隈投手からクリスマスプレゼントが！岩隈投手を励ますために奥様のまどかさんそしてお子さんの羽音（うた）ちゃん原作の絵本「イワクマクマときずなのえほん」が子ども達全員にプレゼントされました。

クリスマス前の短い時間でしたが、岩隈投手と一緒に話をしたり、サインをもらったり写真を撮ったりと子ども達は大喜びでした。

最後に岩隈投手は「ハウスのようなところがどんどん増えて欲しい。また来年も来ます。」と話してくださいました。

東大ハウス 建設発表会

10月7日（木）国内第８号目となる「ドナルド・マクドナルド・ハウス 東大」の建設発表会を東京大学医学部附属病院と合同で開催しました。

かねてより付き添い家族のための滞在施設を病院の近くに確保することを検討していた東大病院と財団で協議を重ねた結果、第8号目となる東大ハウスの建設が決定いたしました。

当日は集まった記者に対して、武谷病院長や五十嵐小児医療センター長にハウスの必要性をお話いただき、財団理事長よりハウスの理念を説明させていただきました。またハウスの模型も披露されました。

12室のベッドルームが備わった東大ハウスは、東大病院敷地内に建設され、2011年末の完成を目指しています。

ジャイアンツもハウスを応援！

読売巨人軍は2010年のシーズン中、東京ドームで行われた試合中に出たホームランの本数1本に付き1万円をドナルド・マクドナルド・ハウス財団に寄付するというチャリティー活動を行なってくださいました。

選手皆様の活躍によりシーズン中に124本のホームランが東京ドームで出て、124万円の寄付をいただくこととなりました。

11月23日（火）東京ドームにて開催されましたジャイアンツファンフェスタの際に、この贈呈式が行われました。4万人以上のファンが集まる中、阿部慎之助選手から財団理事長にチャリティー金が贈呈されました。

『ハッピーおりづるプロジェクト』贈呈式

2009年11月にマクドナルドの店舗にて「ハッピーおりづるプロジェクト」が行われ、多くの方に折鶴を折っていただきました。集められた折り鶴264,223羽の一部を用いて制作された作品「羽ばたく想い」の贈呈式が2010年2月にせたがやハウスにて行われました。鶴一羽一羽にメッセージも書かれており、飾られている作品を見て多くの利用者が励まされています。

色とりどりの「さつき展」開催

5月20日（木）～6月10日（木）、こうちハウスにて恒例のさつき展を開催しました。

一年を通じてボランティアの方が育てたさつきが満開になるこの時期に一人でも多くの方に見ていただこうとハウスの中庭を一般公開しさつき展を行っています。今年で6回目を迎えるさつき展のために今年は30鉢のさつきを用意し、200名以上の方にきれいに咲いたさつきを鑑賞していただきました。利用者からも「心が和む」との声が上がっており、さつきを育てているボランティアの励みとなっております。

こうちハウス&おおさか・すいたハウス5周年！

こうちハウスそしておおさか・すいたハウスが5周年を迎え、記念のパーティーをそれぞれのハウスで開催しました。

こうちハウスでは日頃からご支援いただいている企業や個人の方々、ボランティアの皆さんをご招待し式典と立食パーティーを行いました。式典ではボランティアへの感謝状贈呈や琴と一弦琴の合奏が披露されました。

おおさか・すいたハウスも今まで来られた著名人やスポーツ選手の写真やサイン、利用家族からのお祝いメッセージ、募金箱設置店のご紹介、最近の周知活動の様子など壁一面を楽しい展示物で飾りました。そして101名が集まる記念パーティーを開催しました。吹田市の阪口市長もお祝いに駆けつけてくださり、ドナルドのお迎えで始まったパーティーは、ボランティア表彰、映像と音楽で綴るハウスの5年間、国立循環器病研究センター北村名誉総長の講演、ボランティアの皆さんの心のこもったお料理など心もお腹も大満足の楽しく素敵なひと時を過ごすことができました。

あらためてハウスは多くの様々な方々の活動により支えられていることを実感した1日でした。

チャリティーパーティー

10月20日（水）、ドナルド・マクドナルド・ハウスのチャリティーパーティーが開催されハウスをご支援いただいている企業や医療関係者の方々にお集まりいただきました。2010年にご寄付を頂きました企業の表彰や海外から日本に治療に来てハウスを利用されたご家族からのメッセージなどを紹介いたしました。年々このパーティーにご参加いただく人数も増えており、今年は400名以上の方にお集まりいただき多くの方々のご協力で4,185,000円のご寄付を頂戴しました。

APMEA コンベンション

10月20日（水）～23日（土）、オーストラリアのタスマニアにてアジアパシフィックエリアのコンベンションが開催され、日本からもハウスマネージャーを含む4名が参加しました。

このコンベンションは2年に一度開催され、各国のハウスおよび財団関係者が集まり今後の活動の方向性や成功事例の情報交換などが行なわれます。

近年、アジアパシフィックのエリアでもドナルド・マクドナルド・ハウスや病棟内に建設されるファミリールームが増えてきています。困難な状況の子ども達をどのように支援するか、また寄付をどのように集めるのが効果的か、など各国よりさまざまな意見が述べられ、有意義なコンベンションとなりました。

シドニーやタスマニアにあるハウスを訪問する機会もあり、他国のハウス運営やボランティア事情などを学ぶことができました。世界各国で運営されているチャリティーの一員であるということが再確認できました。

仙台放送まつりにて募金活動

毎年恒例の仙台放送まつりが9月25日（土）、26日（日）の2日間、勾当台公園にて開催され、せんだいハウスへの募金活動と広報活動を行ないました。

2日間ブースを設置した他、メインステージにてドナルドとハウスマネージャーによるハウスの紹介がされました。さらにこの様子が土曜日の生放送番組内で紹介されました。当日は東北福祉大学のイベントボランティアが一生懸命チラシを配りながら募金の呼びかけを行い、その結果多くの方がハウスの活動に共感してくださり、2日間で合計113,420円の募金が集まりました。

おかわりサンタがやって来た！

12月15日（水）埼玉西武ライオンズで活躍している「おかわり君」こと中村剛也選手がサンタクロースに扮してせたがやハウスを訪問してくださいました。レオも一緒に来て、病気と闘う子ども達を励ましてくれました。

集まった子ども達の中には野球をしていた子どもや中村選手のファンもいて、それぞれに渡されたプレゼントに感激していました。

最後はクリスマスツリーの前で、みんなで記念撮影をしてとても思い出に残った一日となりました。中村選手、ありがとうございます。

第12回 ドナルド マクドナルド ハウス チャリティゴルフ

毎年恒例のドナルド マクドナルド ハウス チャリティゴルフが12月13日（月）に戸塚カントリー倶楽部にて開催されました。毎年ご参加いただいている選手会長の深堀圭一郎プロをはじめ43名のプロゴルファーを含む、167名の方がご参加くださいました。

当日の天気は曇りのち雨、最高気温9度とプレイヤーの皆さんには辛いコンディションでしたが、ドナルド・マクドナルド・ハウスのチーフハピネスオフィサーであるドナルドの始球式などがあり、大会は大いに盛り上がっていました。

多くの皆様のご参加により、「第12回ドナルド マクドナルド ハウス チャリティゴルフ」実行委員会より800万円がドナルド・マクドナルド・ハウス財団に寄付されました。

さくらちゃんを救う会からのご寄付

重い心臓病（特発型拘束型心筋症）で苦しんでいた上田さくらちゃんを救うために立ち上げられた「さくらちゃんを救う会」より2,000万円のご寄付をいただきました。これは基金の凍結期間満了を迎えるにあたり、支援者の方々よりドナルド・マクドナルド・ハウスの趣旨にご賛同いただき実現したものです。

心臓移植手術のためアメリカに渡った上田さんご家族は、アメリカ・ローマリンダのドナルド・マクドナルド・ハウスを利用されました。滞在中さくらちゃんは庭の遊具で遊ぶのが何よりの楽しみだったとの事です。さくらちゃんのお母様からは、「明るく清潔で、患者家族が心から安心して過ごすことができる本当にありがたい場所で、もっともっと増えることを願っております。」といただいております。

無事手術を終えたさくらちゃんは、現在日本で元気に過ごされています。

さくらちゃんを救う会　代表　永田　浩三

当時４歳だったさくらちゃんはアメリカのローマリンダ大学病院で手術を受け、今は元気に学校に通い、まもなく小学３年生になります。

さくらちゃん一家を含め、移植手術を受けるために渡米した多くの子供たちとその家族が現地のドナルド・マクドナルド・ハウスに滞在し、スタッフのみなさまの善意に支えられてきました。

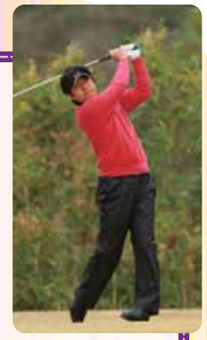
さくらちゃん一家が受けた恩恵を日本で闘病を続けるお子さんやご家族に少しでもお返しできたのであれば幸いです。

元コンサドーレ曽田選手さっぽろハウスを訪問

10月8日（金）９年間コンサドーレ札幌に在籍し、現在は同チームのアドバイザリースタッフとして活動されている曽田雄志さんが、さっぽろハウスを応援訪問してくださいました。

かねてより子ども達が楽しく参加できるイベントを企画し、その収益を困難な状況下にいる子ども達に還元したいと考えていた曽田さん。自身がプロデュースした社会貢献活動を目的としたパーティーの収益で本やDVDを購入し、さっぽろハウスに届けてくださいました。利用家族やボランティアとの楽しい懇談の時間や記念撮影とサイン会もありの楽しいひとときでした。この訪問の様子は、北海道新聞の朝刊にも掲載されました。

深堀圭一郎プロ獲得賞金総額の5%を寄付



いつもハウスを支援してくださっているプロゴルファーの深堀圭一郎プロが2010年の獲得賞金総額の5%を寄付してくださいました。

これまでドナルド マクドナルド ハウス チャリティゴルフへの参加、そしてハウスの訪問を通じて利用者やボランティアの皆さんを激励してくださっていましたが、今年はさらにキャディーバッグやヘッドカバー、傘にハウスのロゴマークを掲出して認知度を高めたり、ご寄付をしてくださるなど積極的にご支援いただきました。また「財団設立当初から病気の子どもと家族のサポートをしてきましたが、この活動は一生続けていきたいと思っています。今回は今までにない形での募金活動を始めようと、賞金総額の5%を寄付することに決めました。病気と闘っている子どもたちに夢や希望、勇気を与えられるように頑張っていきたいと思います。」とコメントしてくださいました。

七夕飾り付け

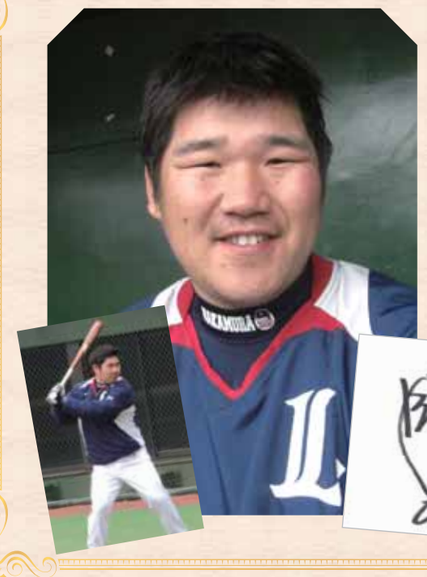
せんだいハウスそしてさっぽろハウスでは、今年も地域の子ども達によって七夕の飾り付けが行われました。病気で大変な思いをしている子ども達を勇気付けようと、みんなで作成した飾りや短冊をきれいに飾り付けてくれました。

短冊には「家族が一緒に笑顔で暮らせますように」「元気になってみんなと遊べますように」などたくさんの願い事が書かれていました。

Messages from Supporters
応援メッセージ

今井 絵理子（SPEED）

『ハッピーリングプロジェクト』サポーターとして、メッセージリング贈呈式のお手伝いをさせていただきました。会場となったせたがやハウスに隣接する国立成育医療研究センターは、息子の礼夢（らいむ）が聴覚障害の可能性があることを知り初めて受診したとても大切な場所です。そのような思い出深い場所で、当時私が頂戴し心に刻んだ「焦らず、比べず、あきらめず。」というメッセージを、時を経てこのプロジェクトに携わるみなさまに、今度は私から応援メッセージとして歌と共にお届けいたしました。人と人の縁、助け合いがもたらす共感や共鳴は、時を経てもこのように輪になって広がるんですね。とても素敵なプロジェクトだと思います。

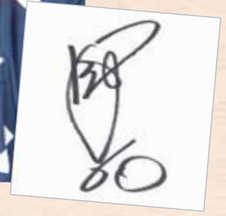


中村 剛也（埼玉西武ライオンズ）

クリスマスが近いということで昨年は子ども達に喜んでもらえるようにサンタクロースの格好をして、せたがやハウスを訪問しました。

小さな子どもが病気に必死に立ち向かっている姿、それでも元気に生活している姿を見て心を打たれました。これまでチャリティー活動に参加する機会はほとんどありませんでしたが、僕達スポーツ選手がハウスを訪問することによって、子ども達がもっともっと頑張る勇気を持ってくれることを知りました。子ども達の笑顔、その笑顔を嬉しそうに見ているご家族の笑顔もとても印象に残っています。

未来ある子ども達のために自分達ができることを行い、今後もハウスの活動の応援はもちろんのこと、入院している子ども達に届くような大きなホームランをたくさん打ちたいと思います。



諸見里 しのぶ（プロゴルファー）

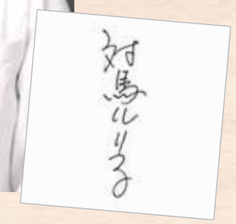
私は、現在プロゴルファーとして活動させていただいていますが、それもジュニア時代にプロゴルファーの先輩方から多くの夢や感動をいただきそれが大きな励みになったからです。ドナルド・マクドナルド・ハウスで病気と日々闘っているお子様たちに、プレーを通じて夢や感動を還元させていただくことで、お子様たちが未来への希望をもって病気と闘っていくお手伝いができたらこんなに嬉しいことはありません。病気のお子様とそれを支えるご家族が安心して治療に専念できる環境を提供しているハウスは本当に素晴らしい施設です。ハウスの活動にプロゴルファーとしてできることをこれからも協力させていただきたいと思っています。全国のハウスを通じてたくさんのご家族の笑顔がひろがることを心より願っております。

対馬 ルリ子（ウィメンズ・ウェルネス銀座クリニック 理事長）

私は産婦人科医としてたくさんの赤ちゃんの出産に立ち会ってきました。頑張って赤ちゃんを産んだお母さんは皆とっても幸せそうな優しい笑顔をしています。

このお母さんと赤ちゃんがいつまでも元気でいてくれればいいな、と心から願う瞬間です。

どんなに祈っても大きくなる過程では病気は経験するものですが、それが家から遠く離れた病院での治療となると精神的不安と経済的負担は並大抵ではありません。私は医療者としても二人の娘を育てた一母親としても、ドナルド・マクドナルド・ハウスの存在に感謝しています。



Financial Report
決算報告

正味財産増減計算書

科　目			当年度	前年度	増　減
一般正味財産増減の部					
Ⅰ 経常増減の部	1. 経常収益	①財産運用収入	5,850,124	0	5,850,124
		基本財産運用収入	1,995,000	0	1,995,000
		特定資産運用収入	3,855,124	0	3,855,124
		②ハウス事業収入	42,308,284	316,720	41,991,564
		宿泊料収入	27,705,900	302,000	27,403,900
		運営補助金収入	12,693,051	0	12,693,051
		その他の収入	1,909,333	14,720	1,894,613
		③寄附金収入	238,931,364	1,962,751	236,968,613
		寄附金収入（マクドナルド）	22,245,823	0	22,245,823
		寄附金収入（サプライヤー）	43,333,799	100,000	43,233,799
		寄附金収入（一般）	69,073,639	570,262	68,503,377
		募金収入	104,278,103	1,292,489	102,985,614
		④会費収入	4,190,350	54,000	4,136,350
		経常収益計	291,280,122	2,333,471	288,946,651
	2. 経常費用	①事業費	202,167,631	1,612,701	200,554,930
		(1) ハウス事業運営費	200,957,631	1,612,701	199,344,930
		給料手当	58,037,330	411,684	57,625,646
		光熱水料費	23,768,556	619,322	23,149,234
		租税公課	10,676,998	0	10,676,998
		減価償却費	55,072,651	0	55,072,651
		その他の経費	43,780,402	581,695	43,198,707
		事業関連経費	9,580,294	0	9,580,294
		ボランティア普及費	41,400	0	41,400
		(2) ボランティア事業	1,210,000	0	1,210,000
		ボランティア助成費	1,210,000	0	1,210,000
		ボランティア研修	0	0	0
		②管理費	40,334,182	46,740	40,287,442
		給料手当	9,934,908	0	9,934,908
		旅費交通費	2,267,495	0	2,267,495
		会議費	440,076	0	440,076
		通信運搬費	89,462	0	89,462
		減価償却費	1,600,660	0	1,600,660
		消耗品費	7,015,646	0	7,015,646
		印刷製本費	4,219,075	0	4,219,075
		催事費	7,333,665	0	7,333,665
		諸謝金	808,500	0	808,500
		租税公課	634,300	0	634,300
		雑費	5,990,395	46,740	5,943,655
		経常費用計	242,501,813	1,659,441	240,842,372
		当期経常増減額	48,778,309	674,030	48,104,279
Ⅱ 経常外増減の部	1. 経常外収益	配当収入	450,000	0	450,000
		有価証券評価益	3,855,000	0	3,855,000
		その他収入	0	0	0
		経常外収益計	4,305,000	0	4,305,000
	2. 経常外費用	有価証券評価損	0	0	0
		指定正味財産への振替額	0	0	0
		経常外費用計	0	0	0
		当期経常外増減額	4,305,000	0	4,305,000
		当期一般正味財産増減額	53,083,309	674,030	52,409,279
		一般正味財産期首残高	2,042,800,060	2,042,126,030	674,030
		一般正味財産期末残高	2,095,883,369	2,042,800,060	53,083,309

指定正味財産増減の部			
一般正味財産からの振替額	0	522,680,900	△ 522,680,900
当期指定正味財産増減額	0	522,680,900	△ 522,680,900
指定正味財産期首残高	522,680,900	0	522,680,900
指定正味財産期末残高	522,680,900	522,680,900	0
正味財産期末残高	2,618,564,269	2,565,480,960	53,083,309

貸借対照表

科　目				当年度	前年度	増　減
Ⅰ 資産の部	1. 流動資産	現金		1,877,245	1,114,019	763,226
		普通預金		68,847,918	88,765,503	△ 19,917,585
		郵便貯金		24,450,801	18,808,192	5,642,609
		未収金		0	0	0
		流動資産合計		95,175,964	108,687,714	△ 13,511,750
	2. 固定資産	基本財産	基本財産定期預金	300,000,000	300,000,000	0
			基本財産土地	222,680,900	222,680,900	0
			基本財産合計	522,680,900	522,680,900	0
		特定資産	ハウス建設積立資金	328,525,705	220,000,000	108,525,705
			特定資産合計	328,525,705	220,000,000	108,525,705
		その他の固定資産	建物	1,590,339,723	1,609,480,619	△ 19,140,896
			構築物	13,217,735	13,592,231	△ 374,496
			什器備品	19,725,474	18,056,560	1,668,914
			ソフトウェア	6,830,705	3,293,061	3,537,644
			電話加入権	76,440	76,440	0
			建設仮勘定	11,473,560	42,932,400	△ 31,458,840
			定期預金	0	0	0
			投資有価証券	30,540,000	26,685,000	3,855,000
			その他の固定資産合計	1,672,203,637	1,714,116,311	△ 41,912,674
		固定資産合計		2,523,410,242	2,456,797,211	66,613,031
		資産合計		2,618,586,206	2,565,484,925	53,101,281
Ⅱ 負債の部	1. 流動負債	預り金		21,937	3,965	17,972
		流動負債合計		21,937	3,965	17,972
	2. 固定負債	固定負債合計		0	0	0
		負債合計		21,937	3,965	17,972
Ⅲ 正味財産の部	1. 指定正味財産			522,680,900	522,680,900	0
		(うち基本財産への充当額)		(522,680,900)	(522,680,900)	
	2. 一般正味財産			2,095,883,369	2,042,800,060	53,083,309
		(うち基本財産への充当額)		0	0	
		(うち特定資産への充当額)		(328,525,705)	(220,000,000)	
		正味財産合計		2,618,564,269	2,565,480,960	53,083,309
		負債及び正味財産合計		2,618,586,206	2,565,484,925	53,101,281

財産目録

科　目					当年度	前年度	増　減
Ⅰ 資産の部	1. 流動資産	現金預金	現　金	現金手許有高	1,877,245		
			普通預金	みずほ銀行新宿新都心支店	1,032,440		
				みずほ銀行成城支店	5,800,843		
				杜の都信用金庫宮城町支店	1,528,650		
				四国銀行高須支店	1,309,507		
				りそな銀行千里北支店	3,558,779		
				足利銀行自治医大出張所	3,234,736		
				三井住友銀行麹町支店	46,219,057		
				北海道銀行新川中央支店	1,409,177		
				多摩信用金庫西国分寺支店	4,754,729		
		郵便貯金			24,450,801		
		流動資産合計				95,175,964	
	2. 固定資産	①基本財産	定期預金	あおぞら銀行本店	300,000,000		
			土　地	東京都世田谷区大蔵	222,680,900		
		基本財産合計			522,680,900		
		②特定資産	ハウス建設積立資金	定期預金	130,000,000		
			ハウス建設積立資金	普通預金	198,525,705		
		特定資産合計			328,525,705		
		③その他の固定資産	建　物	宿泊施設	1,590,339,723		
			構 築 物	ハウス看板等	13,217,735		
			什器備品	家財及び事務機器等	19,725,474		
			ソフトウェア	会計ソフト及びホームページ	6,830,705		
			電話加入権	施設設置電話	76,440		
			建設仮勘定	東大ハウス	11,473,560		
			投資有価証券	マクドナルド株式	30,540,000		
		その他の固定資産合計			1,672,203,637		
		固定資産合計				2,523,410,242	
		資産合計					2,618,586,206
Ⅱ 負債の部	1. 流動負債	預り金	源泉所得税		21,937		
		流動負債合計				21,937	
		負債合計					21,937
		正味財産					2,618,564,269

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1)有価証券の評価基準及び評価方法について
その他の有価証券…決算日の市場価格等に基づく時価法
(売却原価は総平均法により算定)によっている。

(2)固定資産の減価償却について
建物、構築物、什器備品及びソフトウェア…定額法によっている。

(3)消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

(単位:円)

科　目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
土地	222,680,900	0	0	222,680,900
定期預金	300,000,000	0	0	300,000,000
小　計	522,680,900	0	0	522,680,900
特定資産				
ハウス建設積立資金	220,000,000	320,000,000	211,474,295	328,525,705
小　計	220,000,000	320,000,000	211,474,295	328,525,705
合　計	742,680,900	320,000,000	211,474,295	851,206,605

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

(単位:円)

科　目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
土地	222,680,900	(222,680,900)	0	0
定期預金	300,000,000	(300,000,000)	0	0
小　計	522,680,900	(522,680,900)	0	0
特定資産				
ハウス建設積立資金	328,525,705	0	(328,525,705)	0
小　計	328,525,705	0	(328,525,705)	0
合　計	851,206,605	(522,680,900)	(328,525,705)	0

4 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

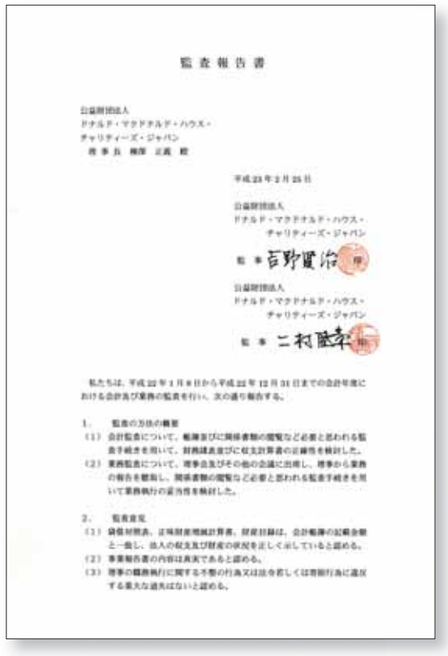
(単位:円)

科　目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建　物	1,860,099,284	269,759,561	1,590,339,723
構 築 物	20,906,672	7,688,937	13,217,735
什器備品	68,072,474	48,347,000	19,725,474
ソフトウェア	11,919,553	5,088,848	6,830,705
合　計	1,960,997,983	330,884,346	1,630,113,637

5 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

(単位:円)

名称ならびに交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
運営補助金（RMHC）	0	4,587,031	4,587,031	0
運営補助金（自治医大）	0	4,169,500	4,169,500	0
運営補助金（吹田市）	0	3,936,520	3,936,520	0
合　計	0	12,693,051	12,693,051	0



監 査 報 告 書

公益財団法人
ドナルド・マクドナルド・ハウス・
チャリティーズ・ジャパン
理事長　柳澤　正義　殿

平成23年3月25日

公益財団法人
ドナルド・マクドナルド・ハウス・
チャリティーズ・ジャパン
監事 吉野賢治 印

公益財団法人
ドナルド・マクドナルド・ハウス・
チャリティーズ・ジャパン
監事 二村隆章 印

私たちは、平成22年1月1日から平成22年12月31日までの会計年度における会計及び業務の監査を行い、次の通り報告する。

1.　監査の方法の概要
（1）会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて、財務諸表並びに収支計算書の正確性を検討した。
（2）業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2.　監査意見
（1）貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める。
（2）事業報告書の内容は真実であると認める。
（3）理事の職務執行に関する不整の行為又は法令若しくは定款行為に違反する重大な過失はないと認める。

役　職	氏　名	所　属
理事長	柳澤　正義	社会福祉法人恩賜財団母子愛育会 日本子ども家庭総合研究所 所長 国立成育医療研究センター 名誉総長
専務理事	廣瀬　修	清泉女子大学 理事
常務理事	島田　浩三	常勤
理事	大野　晃	森永乳業株式会社 代表取締役会長
	村上　陽一郎	学校法人東洋英和女学院大学 学長
	鶉橋　誠一	スターゼン株式会社 代表取締役会長
	有村　治子	参議院議員
	ダニエル・H・セイヤー	日本コカ・コーラ株式会社 代表取締役社長
	三宅　泰徳	フジパングループ本社株式会社 代表取締役社長
	横山　利夫	チャーティス・ファー・イースト・ホールディングス株式会社 エグゼクティブ・アドバイザー
	炭谷　茂	社会福祉法人恩賜財団 済生会 理事長（元環境事務次官）
	好本　一郎	日本マクドナルド株式会社 取締役 上席執行役員
監事	二村　隆章	公認会計士
	吉野　賢治	公認会計士
評議員	西村　由美子	オーガストネットワークインク 代表
	残間　里江子	プロデューサー
	矢島　尚	株式会社プラップジャパン 取締役会長
	ジェフリー・マクニール	Market Makers Inc. 代表取締役社長
	宮田　佳代子	フリーキャスター
	後藤　亘	株式会社エフエム東京 取締役相談役
	大熊　由紀子	国際医療福祉大学大学院 教授
	南　砂	読売新聞東京本社 編集委員
	佐多　保彦	東機貿グループ各社 代表取締役社長
	安田　隆之	日本マクドナルド株式会社 上席執行役員 管理部門担当
	岡野　弘明	日本マクドナルド株式会社 コーポレートリレーション本部 CSR部長
	桃井　真里子	自治医科大学とちぎ子ども医療センター センター長
選考委員	丸木　一成	国際医療福祉大学 医療経営管理学科 教授
	堀口　雅子	虎の門病院産婦人科 元医長
	栗山　真理子	NPOアレルギー児を支える全国ネット「アラジーポット」専務理事
	阪井　裕一	国立成育医療研究センター 総合診療部 部長

Board of Directors,Councilors and Selection Members

役員・評議員・選考委員一覧

Our Supporters
サポーター紹介

Gold Sponsors

Silver Sponsors

Gold Sponsors

さくらちゃんを救う会
日本コカ・コーラ株式会社
日本マクドナルド株式会社

Silver Sponsors

株式会社イナ・ベーカリー
有限会社ウノ・コーポレーション
エコラボ株式会社
オレンジベイフーズ株式会社
ケンコーマヨネーズ株式会社
杉並区立学校教職員互助会
スターゼン株式会社
住金物産株式会社
医療法人泰生会
株式会社匠
デルマール株式会社
東京コカ・コーラボトリング株式会社
株式会社ビッグタイム
株式会社富士エコー
フジパングループ本社株式会社
有限会社ベルエキップ
株式会社豊昇
三井物産株式会社
森永乳業株式会社
株式会社山形屋商店
アクアクララレモンガスグループ
Cargill Meats (Thailand) ,Ltd.
J.R. SIMPLOT CO.
OSI Group ＬＬＣ
Rose Packing Company.INC

Bronze Sponsors

有限会社アークピック
アグリシステム株式会社
株式会社アグレッシブスタッフ
アサーンスの会
有限会社アビリティ
株式会社アメリコ
株式会社アルゴ
有限会社アルファイン
伊藤ハム株式会社
エーオンホールディングスジャパン株式会社
有限会社オカダ
有限会社キノシタ
キユーピー株式会社
株式会社キユーソー流通システム
清塚信也さんコンサート事務局
クオリティフーズ株式会社
株式会社グッドイーティング
グリフィス・ラボラトリーズ株式会社
コヴィディエン　ジャパン株式会社
コカ・コーラウエスト株式会社
コカ・コーラセントラルジャパン株式会社
株式会社札幌フードシステムズ
サンウエーブキッチンテクノ株式会社
讃陽食品工業株式会社
株式会社ジェイアール
株式会社ジャパンエフエムネットワーク
新三平建設株式会社
大同印刷株式会社
有限会社タイメイコーポレーション
株式会社タカコーポレーション
株式会社貴久
タビーコーポレーション株式会社
多摩医療PFI株式会社
株式会社丹青社
株式会社デルマールダイニング
東罐興業株式会社
東急ステイサービス株式会社
利根コカ・コーラボトリング株式会社
株式会社ドリーム
株式会社中西製作所
株式会社名古屋光商事
日世株式会社
株式会社日本経済新聞社
日本マッケイン・フーズ株式会社
有限会社布屋
株式会社ノモト
有限会社ハーベスト
有限会社パレット
ビーコン・コミュニケーションズ株式会社
有限会社ヒシ・システムプラザ
ビルド・ア・ベア　ワークショップ
ヒロフーズ株式会社
株式会社ファンケル　もっと何かできるはず基金
福岡大同青果株式会社
株式会社フジカワ
富士ブロート株式会社
有限会社ホット・ショット
株式会社プロモートワン
株式会社マルマサフード
株式会社 明治
メロディアン株式会社
株式会社遊
株式会社遊　社員一同
株式会社リバーサイドコーポレーション
リフレッシュ
ＡＱロジスティクス株式会社
KDDI株式会社＋αプロジェクトメンバー
Lady Soul ASATO MEMORIAL LIVE
MLA豪州食肉家畜生産者事業団
株式会社NHKエデュケーショナル
SAWAZ Lifeplus PARTNERS
ＵＣＣ上島珈琲株式会社

Bronze Sponsors (個人)

赤津　英二郎　　赤堀　さくら
五十嵐　隆
石井英利・成子・聡・希実
伊藤　明日香　　梅谷　孝
近江　一彦　　大蔵　とく子
小笠原　貴美子　　岡野　弘明
開原　成允　　片岡　正敏
賀藤　均　　川上　あづさ
川口　明美　　北田　善保
五石　圭司　　小林　繁一
小林　登　　小南　真奈美
菰田　快　　阪井　裕一
サキナ　えんじぇる　　佐多　保彦
佐藤　紀子　　柴垣　有吾
島田　浩三　　下平　篤雄
白石　公　　図子田　誠
砂子忠嗣・麻友・葵
瀬名秀明・鈴木康夫
高木　亨　　高久　史麿
高田　穂子　　高橋　和夫
高橋　大智　　武谷　雄二
田中　重徳　　谷口　洋子
玉井　宏明　　時田　源一
長瀬　淑子　　野崎　久晴
野中　圭樹　　野間　清司
橋本　伸子　　畠　勝彦
原田　泳幸　　原田　キミコ
原本　俊則　　菱沼　秀仁
深堀　圭一郎　　福岡　和子
別所　文雄　　北東哲也・美苗・澪
前納　健二　　松井　かつ子
松本泰直・明子　　松本莉空・莉奈
水口　雅　　三橋　美榮子
宮下　建治　　弁護士　村田雅夫
森崎　菜穂　　柳澤　正義
山崎　命正　　山中　理莉子
山元　徹　　吉岡　貴志
リーズナージョナサン智恵子
渡辺　博

（50音順）

公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン

〒163-1339 東京都新宿区西新宿6-5-1　新宿アイランドタワー 39階
TEL：03-6911-6068　FAX：03-6911-6198
http://www.dmhcj.or.jp